

遊びのなかの言葉をてがかりにした5歳児の思考力発揮の分析

○ 杉田 美穂 小野塚 若菜 (ベネッセ教育総合研究所)

1. 研究の背景

子どもの発達や学びの連続性の保障のため、幼児期と児童期の教育の円滑な接続は極めて重要である(中央教育審議会, 2010)。幼稚園教育要領(文部科学省, 2017)には、育みたい資質・能力が接続期に現れる様子について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(以下、10の姿)として具体的に示され、教育課程に生かすことを求めている。しかし、接続期の連携が交流的なものにとどまり、資質・能力をつなぐカリキュラムの編成や実施が十分ではないという課題が指摘されている(中央教育審議会, 2022)。

また、幼児教育・保育の国際比較からは、日本の保育者は社会情緒的なスキルの育みを重視する一方で、言葉や思考力に関わるスキルの育みへの意識は高くないことが示唆されている(国立教育政策研究所, 2020)。

内田・津金(2014)は、幼児の自発的な遊びのなかにおける論理的思考の発達の様相や特徴を明らかにしている。また、泰山・小島・黒上(2014)は学習指導要領において指導が想定されている思考力を、「比較する」「分類する」など具体的なスキルに落とし込んだ19の思考スキルの枠組みを用いて体系的に示している。このように、幼児期あるいは小学校以上における思考力の発達や育みに関する知見はそれぞれに出されているが、実際はそれらが一貫的に育まれていることを、幼児教育と小学校教育それぞれの立場から理解する必要がある。

本研究では5歳児の思考力を、泰山ほか(2014)の19の思考スキルの発揮と定義した。そのうえで、小学校以上の教育課程で育成を目指す思考力について、その芽生えが5歳児の遊びのなかで育まれているのではないかと考えた。そして、遊びのなかの5歳児の言葉を手がかりに思考力を見とる観点として整理ができるのではないかと考えた。これにより、前述したように、社会情緒的スキルに比べて高くないとされる言葉や思考力に関わるスキルの育みについて、保育者が意識を高め、幼小接続期のカリキュラム編成や実施に活かす視点になるのではないかと考えた。

2. 目的

言葉を手がかりとして、5歳児の遊びのなかでどのような思考スキルの発揮を見とることができるか。また、見とることができた場合、どのように整理することで、保育者の言葉や思考力に関わるスキルの育みへの意識を高めることに貢献するかを明らかにする。

3. 方法

3.1 幼稚園教育要領等に見いだせる思考スキル

育みたい資質・能力について、幼児期と児童期のつながりを確認するため、思考スキルの枠組みを用い、幼稚園教育要領等に示される10の姿および学習指導要領(小学1, 2年の国・算・生活)解説の分析を行った。まず、記述内容を子どもの活動単位に分節化し、発揮が想定できる思考スキルを対応付けた。分析は発表者2名を含む複数名で協議し、1つのスキルに限定できない場合は複数のスキルを対応付けた。

その結果、対応づけられた上位の思考スキルには「見通す」「評価する」「関係づける」など、幼小に共通するものが複数あり、思考スキルの芽生えが10の姿のなかに見出せることが示唆された。

3.2 5歳児の遊びにおける思考スキルの検証

内田・津金(2014)は、国立大学附属幼稚園の研究紀要の事例にある遊びの展開から、論理的思考力の発揮を6の分類規準を用いて分析している。その結果、3・4・5歳にすべての論理的思考が読み取れたことや、5歳児に「時系列・因果」の視点が多く表れることなどを明らかにした。

本研究では内田・津金(2014)の手法を援用し、子どもの言葉を手がかりに、その場面で発揮している思考を想定するという方法で分析を行った。研究の対象を5歳児が思考を働かせていると想定できる具体的な遊びの事例(後述)とし、思考スキルの発揮が想定できる5歳児の言葉や状況に19の思考スキルを対応付けた。その際、1つの思考スキルに限定できない場合は複数のスキルを対応付けた。対応づけは、解釈が恣意的になることを避けるため、発表者2名と保育者(首都圏の保育園の園長、主任保育士)2名の計4名によって協議しながら行った。

第一に「幼児の遊びにみられる学びの芽」(ベネッセ次世代育成研究所, 2008)に記述された9事例を分析対象とした。この分析は、思考スキルの概念を分析者が共通に理解することに加え、続く工程で保育者が5歳児の遊びのなかで思考スキルを見とる観点をふまえて事例を記述するための準備とした。第二に、子どもの言葉を手がかりに、思考スキルを発揮していると想定できる遊び26事例を保育者が記述し、分析対象とした(表1)。

【表1】5歳児の遊びにおける状況と言葉

	あめのおかげ? 5歳児 4月
状況	晴れた日に大きな砂場のある公園へお散歩に行きます。到着するとさっそく子どもたちは砂遊びを始めました。さらさらした砂ではなかなか大きな山にはならず悪戦苦闘していました。雨が降った次の日、保育者は同じ公園へ行くことにしました。
言葉	A児「あれ!?山がつくりやすい」【比較する】 B児「ほんとうだ」 C児「雨が降って、砂がぬれたからじゃない?」 【変化をとらえる】【理由づける】
状況	山がどんどん高くなりトンネルも作ることができました

表1の事例では、保育者は、晴れた日にうまく山が作れなかった子どもの様子をとらえ、雨の降った翌日に再び公園に行き砂に親しむことで、水分を含んだ砂の様子の変化に気付いてほしいというねらいをもっている。A児の言葉からは、晴れの日と雨の翌日の砂の様子を比べ(【比較する】)、その違いに気付いていることを見とることができる。また、C児の言葉からは、晴れの日と雨の翌日の砂の様子の変化に気づき(【変化をとらえる】)、乾いた砂では山が作りに

くかったのに、作りやすくなったのは、砂が雨にぬれてまどめやすくなったことが原因と述べて（【理由づける】）いることがうかがえる。このように、子どもの言葉から発揮が想定される思考スキルを対応づけていった。

最後に、2種・計35事例の分析から、思考スキルごとに5歳児が思考を働かせていると想定される言葉を状況とともに一覧にした（表2）。その一覧を基に思考スキルの発揮が見られた活動例として記述し、保育者によって実際の保育場面における了解性を確認した（表3）。

【表2】「見通す」を發揮している5歳児の具体的な言葉

・『くださいね』って書くほうが、読んでいる人にやさしいかんじだよな?」…保護者にむけたやさしい伝え方を考えて、保育者に相談している。
・「とけたら、レインボージュースになるかも!」…色を付けた雪が溶けたら虹色の層になることを期待している。

【表3】思考スキルを働かせていると想定できる活動例

思考スキル	5歳児の活動例
【多面的にみる】 多様な視点や観点にたって対象を見る	・身近な人との関わりのなかで、「相手はどう思うだろう」とほかの人の思いを想像する。 ・自らが経験し、興味をもったことについて、もっと詳しく知りたくなり、図鑑等で調べる。
【見通す】 自らの行為の影響を想定し、適切なものを選択する	・身近な事象や事柄について、次はこうなるのではないか、あるいは、なつてほしいと予想をする（根拠は感覚的なものであることが多い）。 ・身近な人を喜ばせようとして計画をしたり、分かりやすいように伝え方を工夫したりする。

4. 結果と考察

思考力の枠組みである19の思考スキルに基づいて、5歳児の遊び35事例について、言葉を手がかりに分析した結果、すべての思考スキルの発揮を見とることができた。また、今回の分析対象のなかでは、「見通す」「評価する」「関係づける」といった思考スキルが多く対応づけられた。この結果は、児童期以降の学習活動で育むことが企図されている思考力の芽生えが5歳児の遊びのなかに現れていることを示すものである。この結果をふまえ、5歳児が思考スキルを發揮している様子について、日々の保育のなかで保育者が子どもを見とる視点として共通に理解できるように、活動例として記述し整理することができた。

事例の記述と分析を行った保育者からは、5歳児の遊びにおいて、言葉を手がかりに思考スキルを見とっていくことにより、「子どもの『言葉』に一層耳を傾けるようになった」「子どもは様々な『考える』をしていると気付いた」「その子の特性がより見えてくるようになった」という子どもを見とる眼差しの変容を自覚する発言があがった。

また、「野菜の収穫時に、量を『比べる』ことができるように、計量器を置いておこうと話合った」「他の保育者と見合うことにより、様々な『見とり方』があることに気付いた」等、同僚の保育者と観点を共有し保育環境の工夫につながった報告がなされた。さらに、学習指導要領から抽出された小学校低学年の活動例とつなげて見ることに

より、「小学校の活動を知り、5歳児の活動とのつながりを意識できるようになった」という意見があつた。これらは定性的な意見であるが、思考スキルの観点を意識することにより、子どもの姿や言葉に様々な「考える」があることに気付き、小学校の学習活動への見通しをもちながら、子どもの思考を深められる環境構成に生かすことに寄与できる可能性が示された。

ただし、表出する子どもの言葉は、保育者や友だちとの関係性や全体の文脈から捉えられるものであることには注意が必要である。今回分析した事例においても、子どもの関心や得意によって、同じ環境や援助のなかでも発揮される思考スキルがそれぞれに異なることが複数あつた。つまり、「ある言葉を発すれば、または、ある活動を行えば、この思考スキルが發揮される」と画一的に対応づけられるものではないということである。幼小接続期の資質・能力を育むカリキュラムへの活用を考えていく際にも、子どもが用いる言葉の背景にある状況をとらえ、どのような思考を働かせているのかを丁寧に見ていく必要がある。

5. 今後の課題

今回の分析を通して、5歳児の遊びのなかで、保育者の適切な援助や環境があることによって、思考スキルがより発揮されやすいことが確認された。本研究では遊びのなかで子どもが發揮している思考スキルを見とることができると中心に検証しているが、それらの発揮を促す援助や環境のありかたを明らかにする研究が今後必要となる。

加えて、このような思考スキルの枠組みを用いた子どもの資質・能力の見とりや活動例が示されることによって、小学校教師が幼児期の遊びを通した学びを理解し、入門期のカリキュラム編成や実施に活用できるかについて、検証を行っていきたい。

参考文献

- ・文部科学省(2010)「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/11/22/1298955_1_1.pdf (2022. 11. 25 アクセス)
- ・文部科学省(2022)「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会(審議経過報告)」
https://www.mext.go.jp/content/20220405-mxt_youji-000021702_2.pdf (2022. 11. 25 アクセス)
- ・国立教育政策研究所(編)(2020)「幼児教育・保育の国際比較 OECD 国際幼児教育・保育従事調査2018 報告書 質の高い幼児教育・保育に向けて」明石書店。
- ・内田伸子, 津金美智子(2014)「乳幼児の論理的思考の発達に関する研究—自発的活動としての遊びを通して論理的思考力が育まれる—」保育科学研究, 第5巻 131-139.
- ・泰山裕, 小島亜華里, 黒上晴夫(2014)「体系的な情報教育に向けた教科共通の思考スキルの検討: 学習指導要領とその解説の分析から」日本教育工学会論文誌, 37(4): 375-386.

謝辞

本研究は、共同研究者として、ベネッセ新横浜保育園 園長 梅澤京子先生、ベネッセひまわり保育園 主任 鈴木久美子先生に、事例の提供・分析にご協力いただきました。心より感謝申し上げます。